

マーケットの動き（2026年7月6日～7月10日）

先週の国内株式市場は、前週末比で下落しました。
週初は、円安や出遅れ銘柄への物色の広がりを背景に、TOPIXが最高値を更新しました。その後は、韓国半導体株の下落や米ハイテク株安を受け、AI・半導体関連株を中心に下落しました。週後半には、韓国株や米ハイテク株が持ち直したことに加え、10日に片山財務相が年金基金による国内金融資産への投資の後押しに言及したことなどを受けて株価は反発し、下落幅を縮めて週を終えました。

投資環境見通し（2026年7月）

国内株式相場は底堅く推移

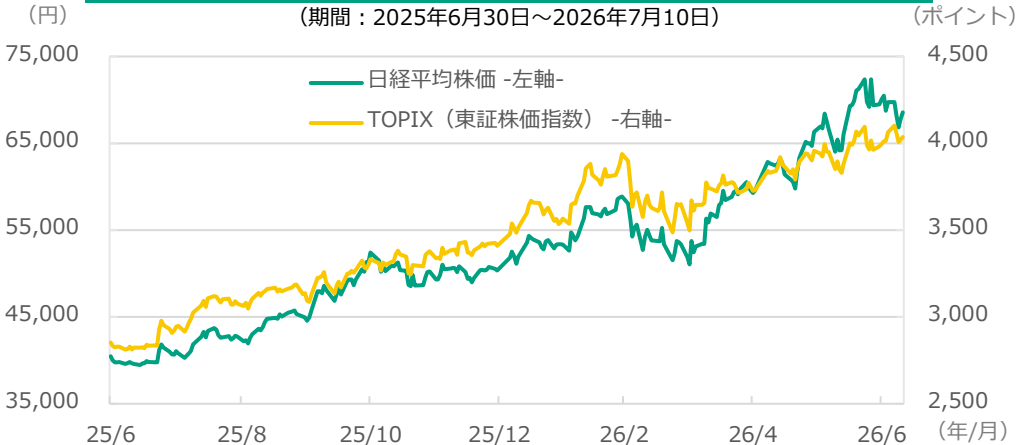
企業業績についてはAI関連が好調で、製造業を中心に通期業績の上振れが期待されています。
国内株式相場はこのところの上昇ピッチの速さから、短期的に調整する可能性はありますが、中東紛争が収束に向かう中、今後は財政拡張が材料視されやすく、加えて高水準の自社株買いにも支えられ、底堅く推移するとみています。

	7月10日	騰落率			
		前週比	1カ月前比	6カ月前比	1年前比
TOPIX（東証株価指数）	4,036.08	▲0.70%	4.90%	14.85%	43.51%
日経平均株価	68,557.73	▲1.70%	6.82%	31.99%	72.92%

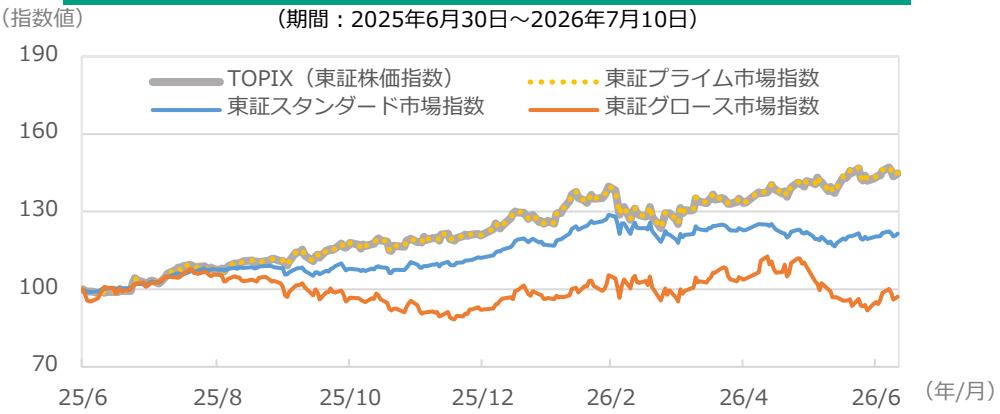
※期間別騰落率の各計算期間は、基準日から過去に遡った期間の応答日（休日の場合は前営業日）までとします。
※最新の「投資環境見通し」もご覧ください。

https://www.myam.co.jp/market/outlook/upload_pdf/202607_outlook.pdf

日経平均株価、TOPIXの推移



東証市場別指数の推移



※2025年6月30日の値を100として指数化
※出所：FactSetのデータを基に明治安田アセットマネジメント作成

●当資料は、明治安田アセットマネジメント株式会社がお客様の投資判断の参考となる情報提供を目的として作成したものであり、投資勧誘を目的とするものではありません。また、法令にもとづく開示書類（目論見書等）ではありません。当資料は当社の個々のファンドの運用に影響を与えるものではありません。●当資料は、信頼できると判断した情報等にもとづき作成していますが、内容の正確性、完全性を保証するものではありません。●当資料の内容は作成日における当社の見解に基づいており、将来の運用成果を示唆あるいは保証するものではありません。また予告なしに変更することもあります。●投資に関する最終的な決定は、お客様自身の判断でなさるようお願いいたします。●当資料にインデックス・統計資料等が記載される場合、それらに関する著作権等の一切の権利は、それらを作成・公表している各主体に帰属します。●使用インデックスについては、マーケット見通し（総合）の最終ページをご確認ください。<https://www.myam.co.jp/market/report>